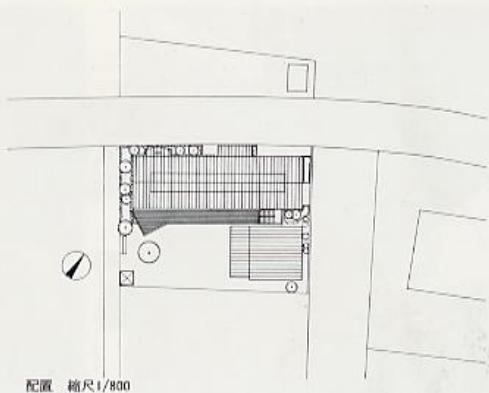


木煉瓦の土間の家

徳島県徳島市

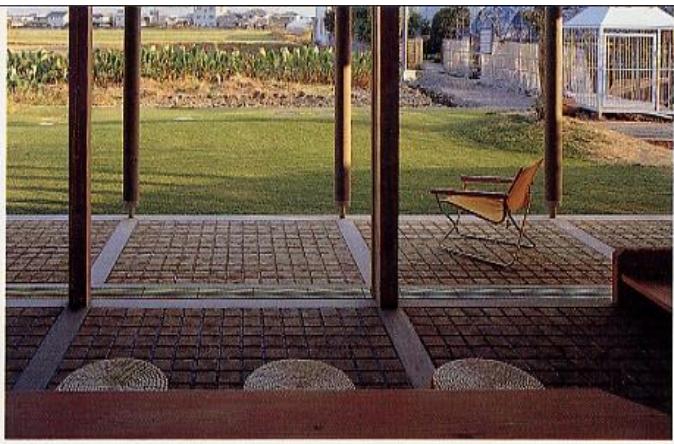
設計 富田真二／富田建築設計室

施工 アズマ建設



南東側全景 建物前にはさといもの葉がその前にはレンコン畑が広がる 庭に面した木製建具を引き込むことにより4間分の開口が取られている 柱スパンは1.9m 左の三角屋根の建物は施主製作の大小屋

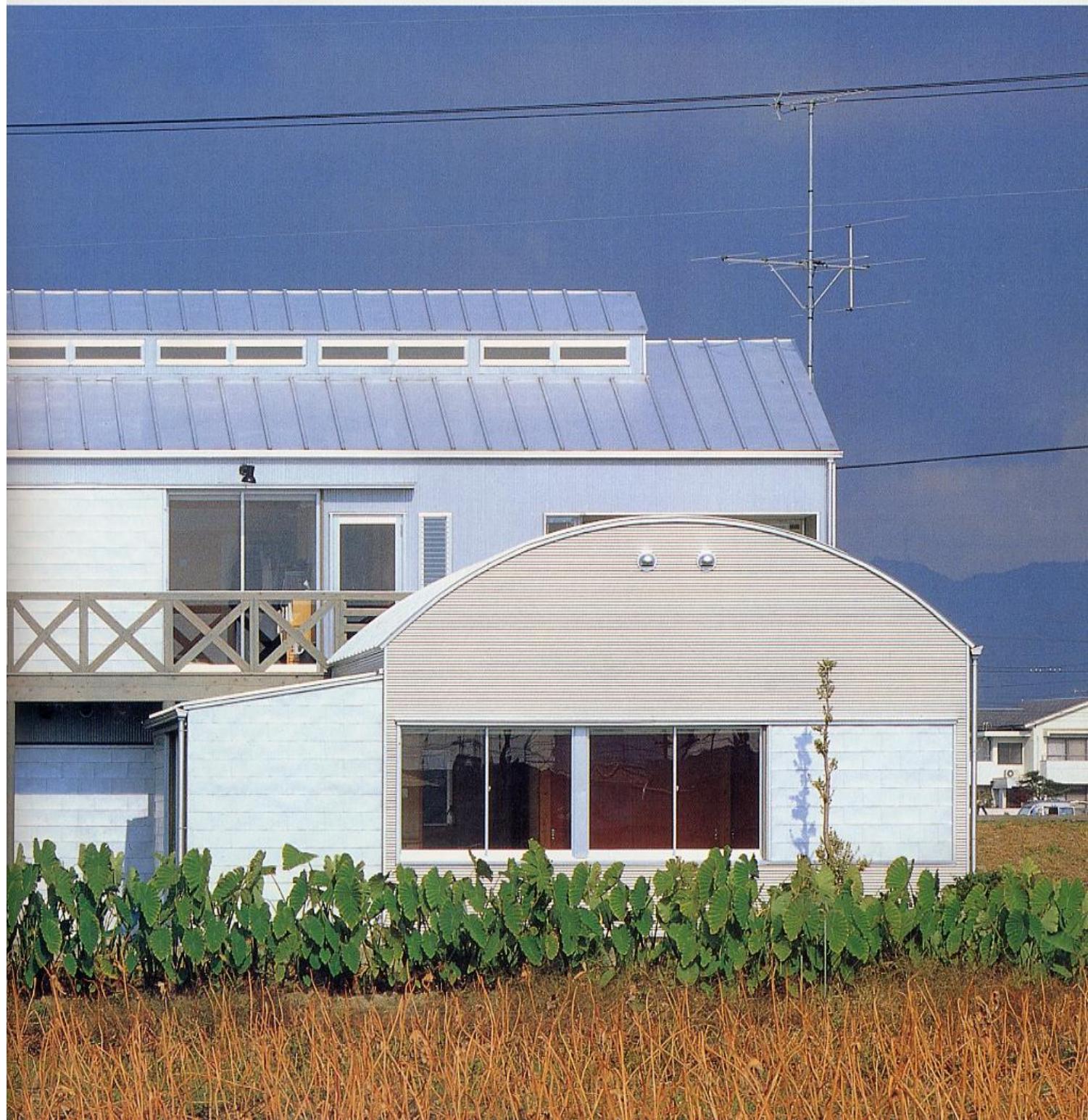


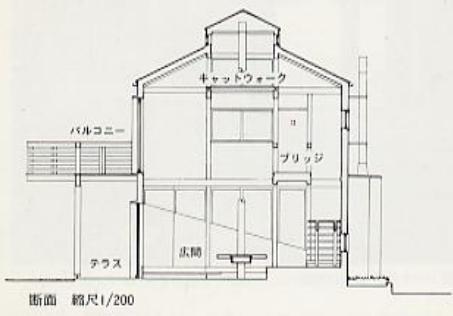


広間より木煉瓦の土間を介して庭を見る テラスのイスはニーチェアX80(新居様) ボーダーはコンクリートモルタル金ゴテ押え



茶の間前テラスより坪庭方向を見る 右側は同親のための離れ 列柱の足元はステンレスの柱脚





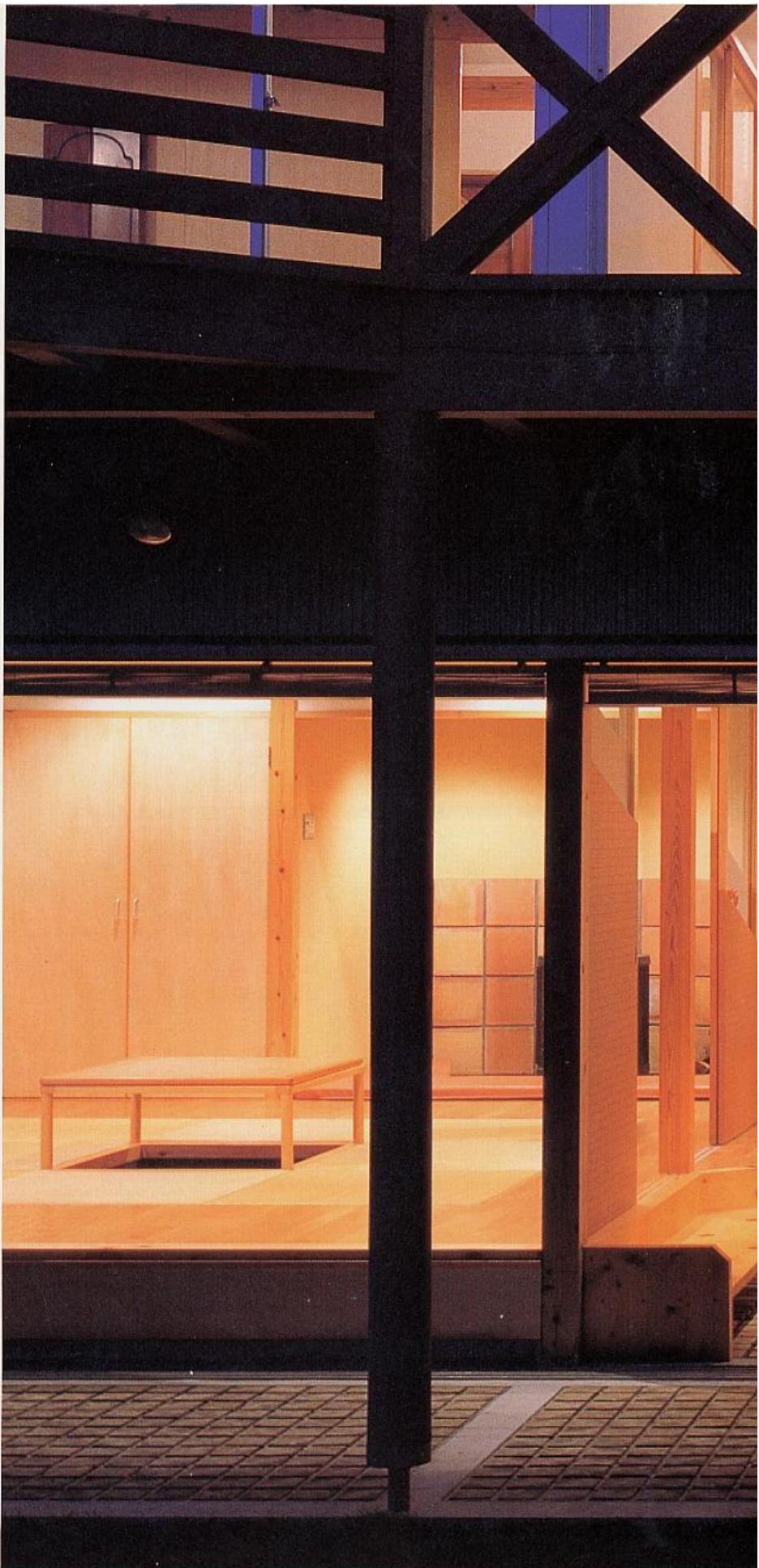
断面 距尺1/200



施主製作の割タイルによる表札



ポーチより離れ玄関方向を見る 右の壁はガルバリウム鋼板厚さ0.4mm小波板張り 左の壁はコンクリート打放し 天井は石膏板の上VP塗り





広間と茶の間 土間に木煉瓦が1間角で敷かれている ダイニングテーブルはヒノキの無垢を使用(設計者製作) イスは東南アジア製でスギ丸太の上にバナナの皮で編んだ座布団がのったもの



■木煉瓦の土間の家
 所在地／徳島県徳島市
 主要用途／専用住宅
 家族構成／夫婦+子供2人+両親
 設計
 富田真二／富田建築設計室
 担当 富田真二 協力 松久雅昭
 設備 芳地設備設計室 担当 芳地静延
 施工
 アズマ建設
 担当 坂東隆之 柱梁 長尾賢一
 設備 イカワ設備 担当 生川靖
 電気 安宅電気工事 担当 安宅泰次 同政雄
 型枠 溝口建設 担当 溝口輝行
 板金 青木板金工業 担当 青木泰弘
 金物 アサヒ製作所 担当 竹本照次
 木製建具・家具 富永ジョイナー 担当 富永啓
 司
 金属建具 三友物産 担当 若山文男
 内装 おがた光内装 担当 尾形一郎
 塗装 殿代塗装 担当 殿代清文
 左官 鳥羽左官 担当 鳥羽清
 タイル 米原タイル 担当 米原孝夫
 燃炉・キッチン リビングショップ清水 担当 関

和室
 植樹 あり造園企画 担当 品川哲夫
規模
 地上2階 最高の高さ7.85m
 敷地面積 351.89m²
 建築面積 190.01m²(建蔽率54.0% 許容70%)
 延床面積 254.88m²(容積率72.4% 許容300%)
 1階 116.18m²
 2階 95.38m²
 階段 43.32m²
構造
 主体構造 木造 一部鉄筋コンクリート造
 基礎 鉄筋コンクリートブロック
工程
 設計期間 1991年1月～1991年9月
 工事期間 1991年11月～1992年12月
法規・敷地条件
 市街化調整区域
 道路幅員 北西5.50m 駐車台数2台
外部仕上げ
 屋根／ガルバリウム鋼板(0.4mm)瓦棒葺き(淀川製
 鋼)
 外壁／ガルバリウム鋼板(0.4mm)小波板張り 一部
 ガルバリウム鋼板(0.4mm)文字葺き

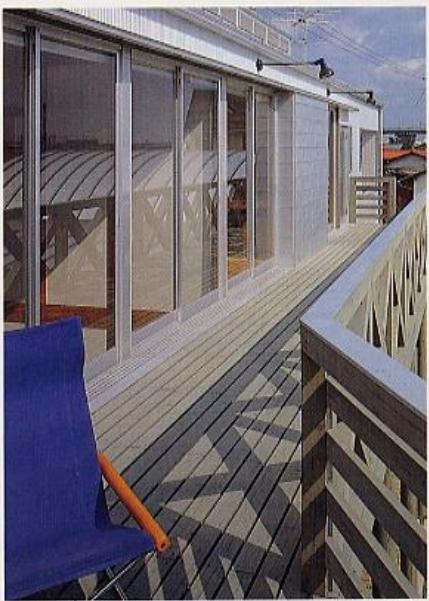
開口部／アルミサッシュシルバー 一部木製建具
ポーチ・テラス／杉0.50mm(CCA処理)木煉瓦敷き
バルコニー／杉板0.38mm(CCA処理)の上サドリン
クラシック塗り
内部仕上げ
土間
 床／杉0.50mm(CCA処理)木煉瓦敷き
 壁・天井／ビニルクロス貼り
広間
 床／杉0.50mm(CCA処理)木煉瓦敷き 一部桜乱
 尺フローリング貼り(6.2mm)(朝日ウッドテッ
 ク)
 壁／アルボリック貼り
 天井／ビニルクロス貼り
 天井／吹抜け
蒅の間
 床／琉球墨敷き 一部桜乱尺フローリング貼り
 (6.2mm)
 壁・天井／ビニルクロス貼り
入り込み暖炉
 床／焼過ぎ煉瓦敷き
 壁／250mm角陶器質タイル貼り
 天井／ジョリバット吹付け(アイカ工業)
台所

床／コルクタイル貼り(5mm)(朝日ウッドテック)
 壁／アルボリック貼り 一部ビニルクロス貼り
 天井／ビニルクロス貼り
寝室・子供室
 床／桜乱尺フローリング貼り(6.2mm)
 壁・天井／ビニルクロス貼り
浴室
 床・壁／100mm角タイル貼り
 天井／パストリップ貼り
離れ表の間・奥の間
 床／コルクタイル貼り(5mm)
 壁・天井／ビニルクロス貼り
設備システム
 空調方式／暖炉 热交換空気換気扇
 給湯方式／石油給湯器
 給排水方式／上水道直結 合併処理し原浄化槽
主な使用機器
 暖炉／モルソー MO-1124G
 空調機器／三菱ロスナイ
 給湯機器・便器・洗面器・バスタブ等／INAX
 厨房機器／ヤマハシステムキッチン エビュート
 家具／造り付け シナベニヤフラッシュ
 照明／ヤマギワ ヤマダ ナショナル 他

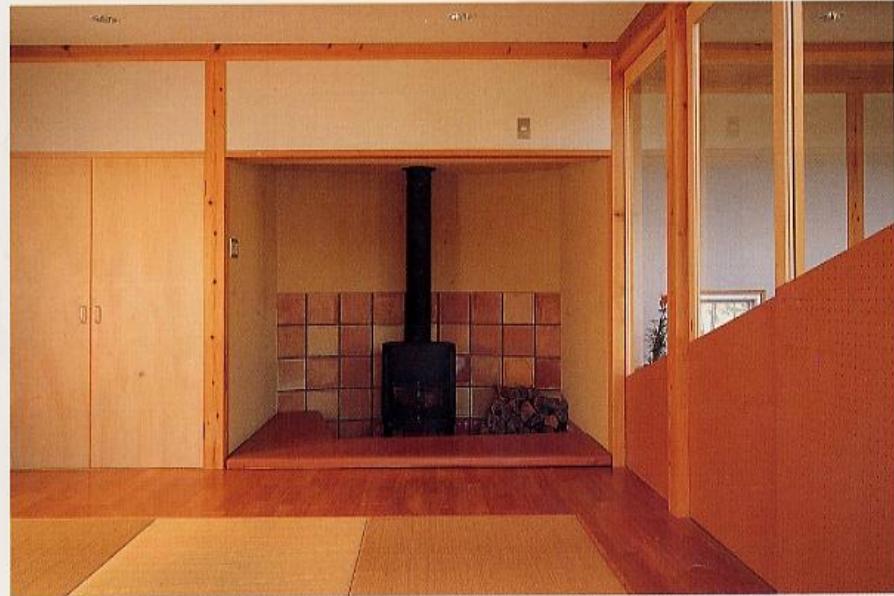
撮影／小川泰祐



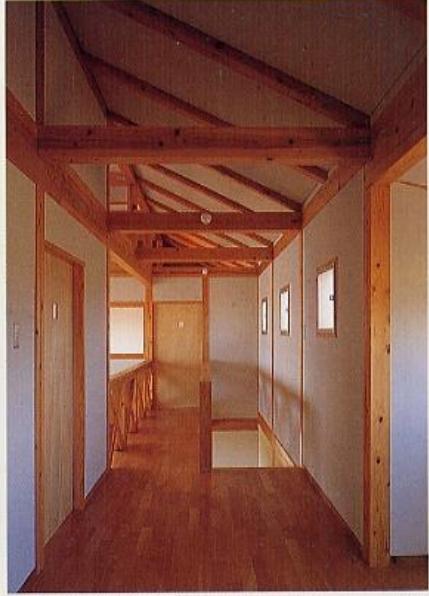
左頁 広間南西側より台所方向を見る。テーブルを貫通するステールパイプは熱交換空気換気扇(三菱ロスナイ)によって暖められた空気を出す。



バルコニー 手摺と床は厚さ38mmの杉板の上サドリンクラシック



蒅の間 床に「入り込み暖炉」(モルソー MO-1124G) 広間との境の建具は斜めにカットされている。壁は琉球墨



子供室前の廊下よりブリッジを見る。ブリッジを渡ると主寝室

徳島市の北のはずれ、田園風景の中に建つ二世帯住宅である。クライアントとは以前からの知合いであり、竣工直後の「高島の住まい」(本誌9108)を見て、同じ思想での依頼になった。“自然との共棲や地域社会との積極的な交流を目指して”の設計が始まった。

□

家と庭をつなぐ

かつての民家には自然を享受するための知恵や工夫があった。たとえば、それは外部レベルを内部へ引き込む「ニワ」や「カマヤ」と呼ばれる土間空間であったり、内部レベルを外部へと導く「エンガワ」や「ヌレエン」の縁先空間であった。これらの意味を再認識し、自然との共棲を試みた。

ポーチから始まる「一間角グリッドにはめ込んだ木煉瓦の土間」は、建物中央の広間まで深く介入し、外部テラスへとつながる。それは芝生の庭に続き田園風景へと拡がる。逆に、庭からは広間に自然に導かれることになる。この木煉瓦による内(家)と外(庭)の連続性は、4間幅でフルオープンする建具を開くことでより鮮明になる。

人が集う

地域社会に馴染む家とは、一言でいえば、見栄や私欲を主張しない家ということになるのだろうか。

波板の外壁はおごりを抑制し、室内深く介入した土間は気安さを表す。ここに訪れた者は、分け隔てなく、開かれた庭を眺めながら広間に導かれることになる。そこにある団炉裏を切った大きなテーブルは家族の食卓であると共に、すべての者を招き入れる「集いの場」の象徴である。“自らの生活の中に人を招くこと”これがこの家族のライフスタイルそのものだったような気がする。

おおらかに

建物中央にある広間の吹抜けが、垂直方向への拡がりとつながりを強め建物を一体化し、土間から屋根裏へと伸びた青い柱がその拡がりを助長する。これは暖炉や団炉裏で暖められた空気を、屋根裏に取りつけた熱交換空調換気扇で新鮮な暖気に変え、テーブル下に吹き出すためのパイプである。越し屋根の連続小窓は煙出しになる。

広間と茶の間を仕切る建具は、適度なプライ

バシーを保ちながらも水平方向への拡がりを損なわないよう斜めにカットしている。土間の木煉瓦や骨組みの杉が、四季に応じた調湿能力を発揮し、一間ピッチの土間と柱、半間ピッチの梁、越屋根下の木製ルーバーが繰り返しのリズムを奏でる。

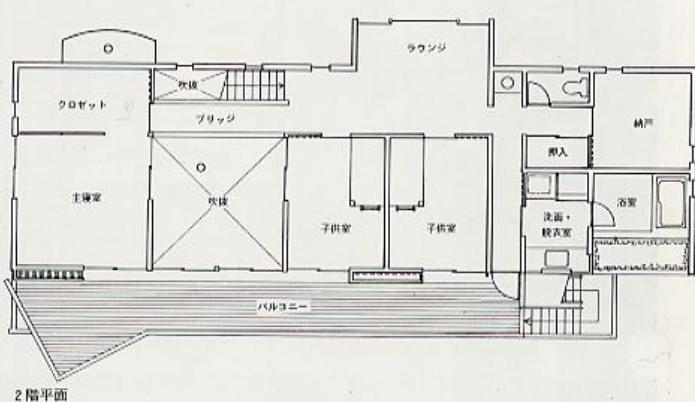
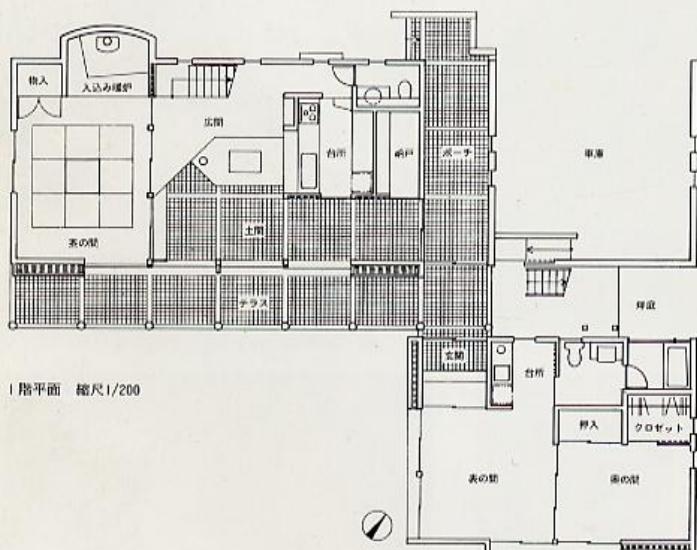
地場杉をふんだんに表した内部は、無機質な外観との相対効果で、より温かみを醸し出す。自らつくる

今回の建築には住まい手が積極的に参加している。四千個におよぶ木煉瓦のアスファルトによる目地詰めは家族全員で行い、割タイルによる表札と定礎の製作は子供たちが担当した。機械いじりが仕事のご主人は、芝生の植栽、尖り屋根の大小屋や枕木を使った薪小屋をつくり、果てはオリジナルの油圧式薪割機まで開発してしまった。

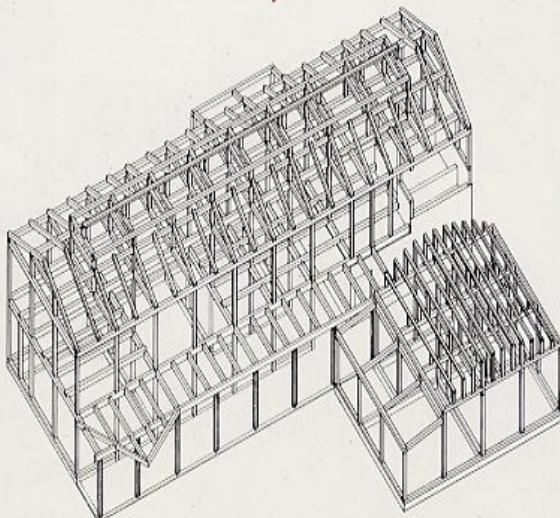
□

かつての土間の再現はどうも風変わりな家に映るようだが、ご主人手製の薪割機は高島の住まいから淡路へと渡り、暖炉のある家族どうしの媒体になろうとしている。

(福田真二)



北西となる道路側全景



構造アクソノメトリック